

社会の認識

(台湾から考える東アジア人類学)

授業概要

現代台湾の社会・文化の諸相から現代人類学のいくつかのテーマについて考える。

主に台湾で起きている現象から考えていくが、単に台湾社会の紹介や理解を目指すのではなく、視点の軸を台湾におき、そこから人類とは何かを考えていくこととする。

講義の内容はまず、本講義を理解するうえでの基礎となる台湾の概要として歴史、地理、エスニシティ、言語、アイデンティティ、宗教などについて概説する。次に、医療、政治、観光などのテーマにおいて、エスニシティ、アイデンティティ、言語、植民地主義、民主化運動、宗教などが、互いに影響しあいながら複雑に交差する様を紹介していく。

到達目標

- 台湾社会の歴史や国際的な位置づけの理解を通じて、その多様性、複雑性を理解する。
- 人類学的手法を用いて、多角的な対象へのアプローチ法を身につける。
- 東アジアの植民地主義、民主化運動の各地での意味合いの違いを理解する。
- グローバル化の進む現代社会において民族、国家、言語といったものの持つ意味を理解する。

成績評価

期末テストを実施する。

授業計画

まず、台湾の歴史、地理、エスニシティ、宗教などの理解を通じて包括的な理解を促す。
その上で、生活者の視点に立った癒しと帝国医療という観点から医療を扱い、次いで植民地主義や民主化運動と宗教がいかなる関係にあるのかを紹介し、最後に観光をめぐる戦争や国際関係といった様々な文脈を講義する。具体的には以下のスケジュールを予定しているが、受講生の希望や関心に合わせて適宜修正する可能性がある。

- 「台湾」とは何か① 概要
- 「台湾」とは何か② 歴史と地理
- 「台湾」とは何か③ エスニシティ、言語、アイデンティティ
- 「台湾」とは何か④ 宗教
- 台湾の医療から考える東アジア① 病いと癒しの多様性
- 台湾の医療から考える東アジア② 帝国医療とそのヘゲモニー
- 台湾の医療から考える東アジア③ 癒しと宗教
- 新しいメディアと新しい社会 メディア人類学とはじめ
- 政治と宗教① 植民地主義、近代化とキリスト教
- 政治と宗教② 台湾の日本人妻とキリスト教
- 政治と宗教③ 台湾の民主化運動とキリスト教
- 政治と宗教④ 台湾の親日的なキリスト教徒たち
- 観光とポリティクス① 台湾と世界遺産
- 観光とポリティクス② 戦争観光という明るいダークツーリズム
- 台湾からアジア、さらに世界をを眺め直すテストとまとめ